

# U.S. Indicators

発表日: 2023年7月13日(木)

## 米国 コアインフレは依然高いが低下傾向継続(6月 CPI)

～7月 FOMC での 25bp 利上げ見通しは変わらずも、9月以降の利上げ観測後退～

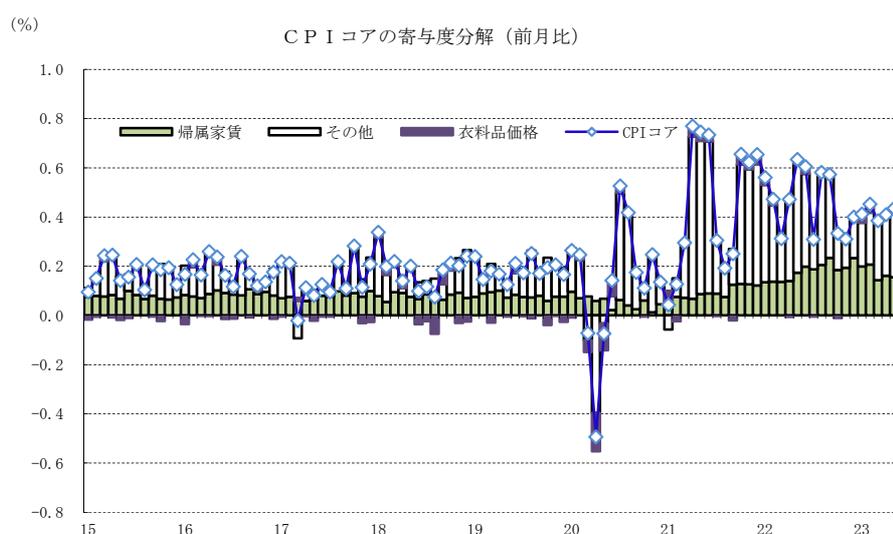
第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

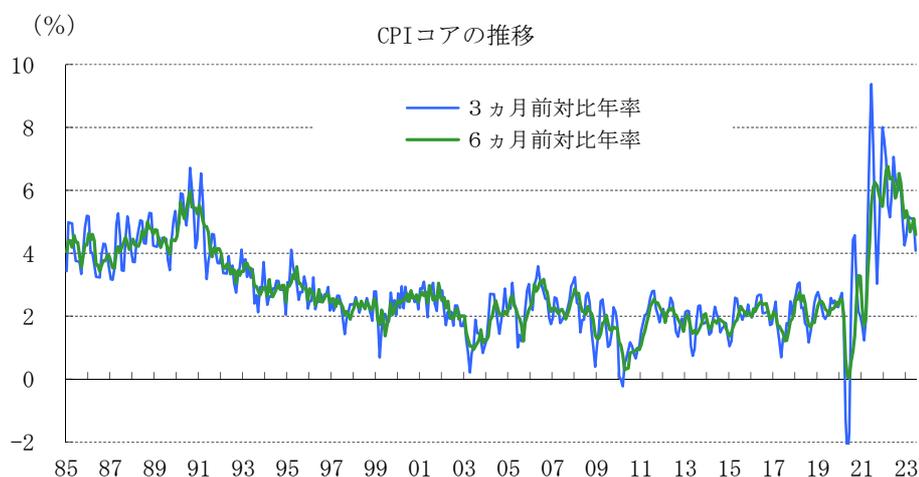
	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
22/06	+1.188	(+9.1)	+0.604	(+5.92)	+6.9	+1.0	+0.8	+0.7	+3.3	+0.6	+0.6	+0.6
22/07	▲0.034	(+8.5)	+0.309	(+5.91)	▲4.7	+1.1	+0.5	▲0.1	▲2.3	+0.4	+0.1	+0.4
22/08	+0.235	(+8.3)	+0.581	(+6.32)	▲3.9	+0.8	+0.8	+0.3	▲1.6	+0.6	+0.4	+0.6
22/09	+0.413	(+8.2)	+0.573	(+6.63)	▲1.7	+0.8	+0.7	+0.0	▲0.4	+0.7	+0.0	+0.8
22/10	+0.488	(+7.7)	+0.333	(+6.28)	+1.7	+0.7	+0.6	▲0.2	+0.7	▲0.3	▲0.1	+0.5
22/11	+0.205	(+7.1)	+0.310	(+5.96)	▲1.4	+0.6	+0.5	+0.1	▲0.7	▲0.4	▲0.2	+0.5
22/12	+0.131	(+6.5)	+0.399	(+5.71)	▲3.1	+0.4	+0.7	+0.2	▲1.6	+0.3	▲0.1	+0.6
23/01	+0.517	(+6.4)	+0.412	(+5.58)	+2.0	+0.5	+0.8	+0.8	+0.4	▲0.4	+0.1	+0.5
23/02	+0.370	(+6.0)	+0.452	(+5.54)	▲0.6	+0.4	+0.5	+0.8	+0.2	▲0.5	▲0.0	+0.6
23/03	+0.053	(+5.0)	+0.385	(+5.59)	▲3.5	+0.0	+0.3	+0.3	▲0.5	▲0.3	+0.2	+0.4
23/04	+0.368	(+4.9)	+0.409	(+5.52)	+0.6	+0.0	+0.2	+0.3	+1.2	▲0.0	+0.6	+0.4
23/05	+0.124	(+4.0)	+0.436	(+5.33)	▲3.6	+0.2	+0.2	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.6	+0.4
23/06	+0.180	(+3.0)	+0.158	(+4.83)	+0.6	+0.1	+0.3	+0.3	+0.2	+0.0	▲0.1	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

23年6月の消費者物価(総合)は、前月比+0.2%(5月同+0.1%)と減速し、市場予想中央値+0.3%(筆者予想同+0.1%)を下回った。エネルギーが前月比+0.6%(5月同▲3.6%)と上昇に転じた一方、食品が前月比+0.1%(5月同+0.2%)と低下したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.2%(5月同+0.4%)と低下し、市場予想中央値同+0.3%(筆者予想同+0.3%)を下回った。CPIコアでは、賃料、帰属家賃、自動車保険等の高い伸びが続いた一方、中古車、家庭用耐久・消耗品、余暇商品、教材の下落や、医療用品、パーソナルケア用品、タバコ関連等が鈍化した。



CPI総合がエネルギー価格の下落を主因に落ち着きを示すなか、インフレの基調を示すCPIコアが前月比+0.158%と21年2月の同+0.127%以来の低い上昇率となった。ただし、CPIコア上昇のモメンタムは、3カ月前対比年率+4.1%、6カ月前対比年率+4.6%とともに高い上昇率にとどまっており、インフレ圧力は依然強いと判断される。



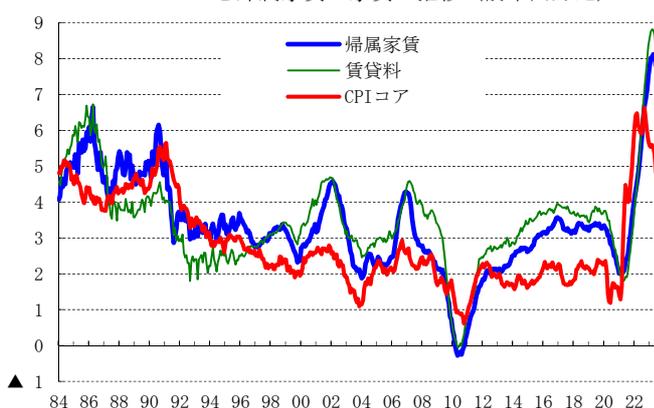
前年同月比では、総合が+3.0%（5月+4.0%）と大幅に低下し市場予想中央値+3.1%（筆者予想+3.0%）を下回った。エネルギーが▲16.7%（同▲11.7%）と下落幅を拡大したほか、食品が+5.7%（同+6.7%）と低下した。さらに、CPIコアが+4.8%（5月+5.3%）と大きく低下し、市場予想中央値の+5.0%（筆者予想+5.0%）を下回った。

CPIコアでは、財コアが+1.3%（5月+2.0%）、サービスコアが+6.2%（同+6.6%）とともに低下した。財コアでは、衣料、中古車、PC等が下落幅を拡大したほか、医薬品など医療用品が低下に転じた。また、新車、娯楽用品等が低下した。サービスコアでは、賃貸料、帰属家賃が低下したほか、医療保険、携帯、航空運賃が下落し、全体を押し下げた。



(出所) 米労働省

CPIコアと帰属家賃・家賃の推移（前年同月比）



(出所) 米労働省

商品・サービス価格の推移（コア、前年比）

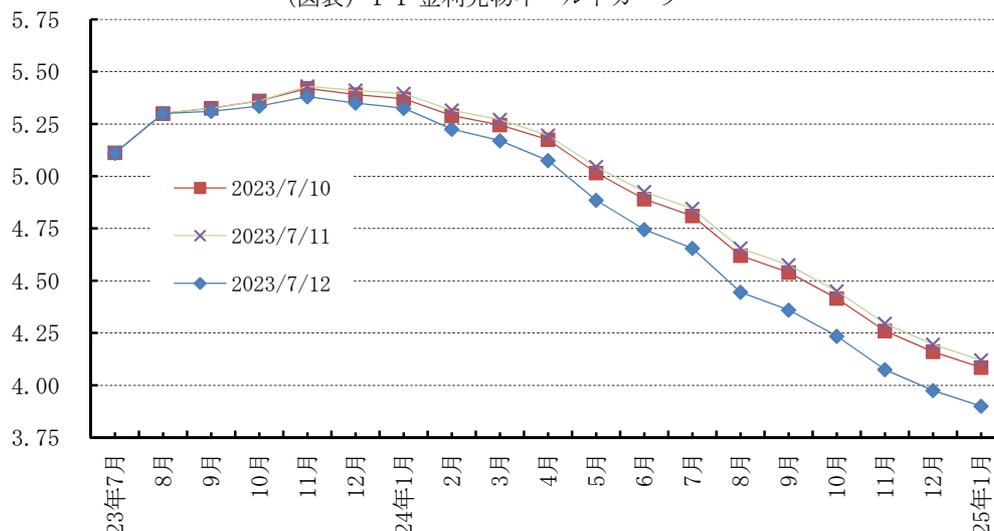


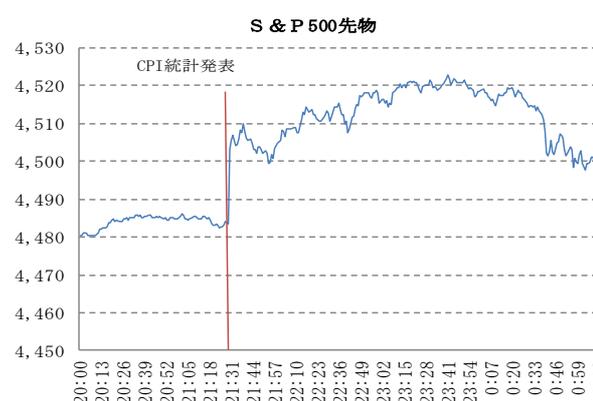
(出所) 米労働省

6月のCPI統計は、市場予想よりも若干速いペースでインフレの低下が続いていることを示した。ただし、FRBは、CPIコアの前月比での鈍化が1ヵ月分だけの動きであるうえ、前年比で+4.8%と鈍い低下を続けていること、労働市場の逼迫が継続していること等を背景に、7月FOMCで25bpの利上げを決定しよう。さらに、7月FOMC後の記者会見でパウエル議長は、労働市場逼迫の緩和が遅れていること、CPIコアの低下ペースは鈍く、FRBの目標の前年比+2%からはかなりの距離が依然としてあることから、9月以降の追加利上げの可能性を否定しないだろう。

金融市場の反応では、FF金利先物が示す7月FOMCでの25bpの利上げの可能性が94.2%に上昇し、政策金利据え置きの可能性が5.8%に低下した。一方、9月FOMC（7月に25bp利上げ実施）での25bpの利上げの可能性が13.2%に低下し、政策金利据え置きの可能性が81.5%に上昇した。このような金融政策の見方の変化を受け、米10年債、2年債利回りは低下し、為替市場では、ドルが対円、対ユーロで下落した。株価は上昇した。また、WTI先物、金価格も上昇した。

(図表) FF金利先物イールドカーブ





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

